AGANO CITY GUIDE

阿賀野市

市勢要覧

わたしたちの好きがつまったまち



















地　勢

新潟平野のほぼ中央に位置し、南側に大河阿賀野川が流れる阿賀野市は、東側に標高1,000メートル級の山々が連なる五頭連峰を背にして形成された扇状地に水田が広がる穀倉地帯です。

県都新潟市に隣接し、磐越自動車道や国道49号をはじめとした3つの国道、JR羽越本線が通り、大都市に近い自然環境豊かな地域です。

気　候

日本海側気候に属しており、四季がはっきりとしています。

春から夏にかけて阿賀野川の水面を渡るように、時折強い東南（ダシ）の風がこの地域を吹き抜けます。



●面積
192.7㎢　東西 約18.5㎞　南北 約15.3㎞
［地目別：農地 69.8㎢　宅地 14.3㎢　山林 65.8㎢］
（令和6年1月1日現在）

●総人口
38,201人　男性 18,597人　女性 19,604人

●世帯数
14,924世帯
（令和8年3月31日現在）

沿　革

- 小浮村（明治24年［大和村］に改称）
- 赤坂村
- 安田村
- 安田村 → 安田町
- 駒林村
- 京ヶ瀬村
- 小島村 → 京ヶ瀬村
- 社田村
- 分田村
- 堀越村
- 堀越村 → 水原町
- 安野村
- 水原町
- 水原町 → 水原町
- 出湯村
- 笹岡村
- 大室村 → 笹岡村
- 山倉村
- 天神塚村
- 神山村 → 笹神村
- 安田町・京ヶ瀬村・水原町・笹神村 → 阿賀野市

市　章



（平成16年4月1日制定）

阿賀野市の「ア」で阿賀野川に抱かれた緑豊かな阿賀野市の明るく元気な姿をデザインしました。

赤はさん然と輝く希望の太陽とみなぎる活力を、青はオアシス都市の誇る人・もの・情報の発信と市民の手をつなぐ協働・共生を、緑は理想の明日を拓く創造性とひろがる夢や未来を表現し、全体で「21世紀に躍進するオアシス都市　阿賀野」が力強く飛翔し、発展する勇姿を象徴しています。

市の花



コスモス（平成19年4月制定）

コスモスロードをはじめ、市内各地で見られます。よく育ち、優しさの中にたくましさを持っているコスモスは、発展していく当市にふさわしい花です。

市の木



桜（平成19年4月制定）

国の天然記念物の珠数掛桜をはじめ、市内各地に桜の名所が存在します。その美しさは、優しさや希望をイメージさせ発展していく当市にふさわしい木です。

市の鳥



白鳥（平成19年4月制定）

「白鳥の湖」瓢湖や田畑など身近な場所で見られ、古くから市民に親しまれています。飛来する姿は幻想的で力強く、発展していく当市にふさわしい鳥です。

イメージキャラクター



ごずっちょ

阿賀野市にそびえ立つ壮大な五頭山と、美しい白鳥をひとつのイメージにまとめました。

観光イベントやSNSで市をPRしています。

阿賀野の四季を楽しむ

スポット＆催し

美しい四季を感じられるスポットや催しが盛りだくさん。
阿賀野の見どころを堪能しよう。

春



3月~4月 阿賀野市桜まつり

夜間ライトアップやキッチンカーの出店、
特産品の販売などをしています。



5月 五頭山山開き

五ノ峰山頂にて登山シーズンの
安全祈願祭を行います。
登山口では登山記念品も
配布します。

6月 瓢湖 あやめまつり

170種類30万本の
「あやめ」が咲き誇り、
初夏の風物詩と
なっています。



秋





10月 コスモスきょうがせまつり

ふるさと公園を会場とし、ステージイベント、
新潟プロレス、テント村など盛りだくさんです。



6月 ふるさとだしの風まつり

地元団体による芸能発表のほか、
屋台村、牧草ロールコロコロ、
大民踊流しなど、見て、食べて、
参加して、楽しさ満載です。

夏



8月 水原まつり

水原本町商店街を会場に、
神楽と獅子の共舞をはじまりに、
大民踊流しなどでまつりを
盛り上げます。

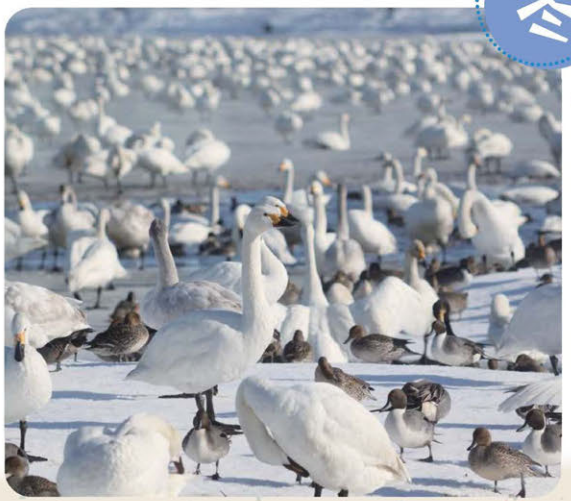




8月 阿賀野市大花火大会

瓢湖湖畔で開催される花火大会。
夏の夜空と湖面に映し出される花火は幻想的です。
最後に打ち上げられるファイナルスターマインの
迫力と美しさは圧巻です。

冬





10月~3月 瓢湖の白鳥

シーズン中は、毎日午前9時、11時、
午後の3時の1日3回「白鳥おじさん」による
餌付が行われています。
瓢湖白鳥観察舎を開設しているので、
暖かいところで白鳥見学ができます。

こどもを育むまち　阿賀野市

こどもの笑顔に感謝を込めて

こども・若者の笑顔があふれるまち

地域全体でこどもや子育て家庭への理解を深め、
安全で安心して子育てができる環境を整備していきます。
併せて楽しく健やかな子育てができるまちづくりを進めます。

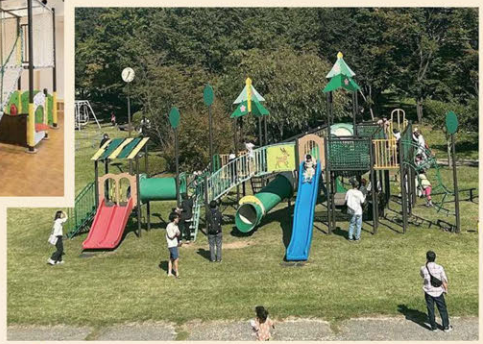
楽しいが詰まった地域の遊び場



道の駅「あがの」では屋内遊具のあるキッズルームや芝生広場など、こどもが楽しめるエリアがあります。その他にも複数の公園が整備されています。また五頭連峰や五頭山麓いこいの森など自然の中で家族で楽しめるキャンプ場があり、登山や沢登りなど、四季折々の自然に触れ合いながら、のびのびと子育てが出来る環境が整っています。







阿賀野市にはこどもや子育て世代を笑顔にする コンテンツがいっぱい！

子ども医療費助成事業



18歳までのこどもにかかる医療費を全額助成しています。

子育て応援カード事業



18歳までのこどもを育てる保護者を対象に、市内協賛店で各種サービスを受けられる「子育て応援カード」を交付しています。

子育て支援サイトはこちらへ

第2子以降の保育料無償 充実した保育園、こども園

第2子以降の保育料の無償化・副食費の補助をしています。
市内には、保育園、幼保連携型認定こども園、幼稚園型認定こども園が合計で15か所あります。





魅力ある 学校給食・給食費の無償化





当市の給食は阿賀野市産コシヒカリを100%使用するなど地場産物が豊富で魅力いっぱいです。
また、学校給食費は、小学校が完全無償化、中学校が半額補助をしています。

子育てアプリ【あがの育サポ】

妊娠中の健診記録から出産後のお子さんの健診・予防接種の案内の配信やその記録など、両親でお子さんの成長を共有できる子育てサポートアプリです。妊娠から子育て期まで、切れ目のない支援をしています。





環境に配慮した農業を未来へ

オーガニックビレッジ

このまちの豊かな自然を次の世代へ

阿賀野市では令和6年度から「オーガニックビレッジ事業」と銘打って、有機農業など環境に配慮した農業を推進しています。
この取り組みを通して、農業振興だけでなく、子育て環境の向上、さらに地域全体の魅力向上にもつなげていきます。

オーガニックビレッジとは?

有機農業の生産から消費まで一貫し、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻き込んだ地域ぐるみの取り組みを進める市町村を指します。
市は令和7年7月にオーガニックビレッジ宣言を行っています。



オーガニックビレッジ宣言を行う加藤市長

有機農業など環境に配慮した農業

農業振興
農業所得の向上
農産物のブランド力向上
新規就農者の確保

まちづくり全体の振興
「オーガニック・環境・食」といった地域の魅力を向上

子育て環境の向上
学校給食の充実


清らかな水と肥沃な大地がおいしいお米を育てます。


四季の恵みが阿賀野の食卓を彩る。


地元の旬のもので健やかな暮らしを。

オーガニックビレッジの主な取り組み

大地の恵みを食卓へ

地元のおいしさをこどもたちに!





現在進めている「地産地消」の取り組みに有機農産物も位置付けて、市内小中学校の学校給食での使用量を増やしていきます。

豊かな自然に恵まれた阿賀野市で、有機農業や食の魅力を身近に感じていただける「にいがたオーガニックフェスタ阿賀野」を開催しています。

環境に配慮した農業の推進

未来につながるやさしい農業!





化学肥料・化学農薬の使用量低減などを推進し、有機米や環境に配慮した米に対する価値を高め、消費者へのPRを進めています。

有機栽培や環境に配慮した農業を実践する農家や新規就農希望者に対して、研修や実証を支援しています。

スマート農業技術の活用



自動抑草ロボット、乗用除草機など省力化に役立つスマート農業技術を普及させ、従来の 除草技術と組み合わせた雑草管理を進めています。

市が導入しているスマート農機

❶乗用除草機「WEED MAN」
雑草と稲の根を張る深さの違いに着目し、稲の根は傷つけず雑草根のみをかきとる新たな除草技術。
稼働の様子(動画)はこちらから

❷抑草ロボット「アイガモロボ2」
除草ではなく、抑草する機械。ブラシで土をかき上げ水を濁らせることで、太陽光を遮り雑草の生育を抑制させる。

食品産業が盛んなまち

五頭山麓からの清らかな水と肥沃な大地、
生産者のこだわりと先進の技術が育む、
多彩な「食」の産業が発展しています。



肉製品

食肉の解体・加工・製造・販売まで一貫して手掛け新鮮で高品質な肉製品を供給しています。







乳製品

安田地区は、新潟県酪農発祥の地。搾りたて新鮮な生乳を主原料とし、コクと豊かな風味が特徴



きのこ

豊かな水や自然環境を活かし、先進的な栽培拠点が展開。



鶏卵加工品

日々仕入れた国産卵を朝一番に割卵して使用。



米菓

地元農家と連携した持続可能な原料調達と高品質な量産体制が大きな特徴。

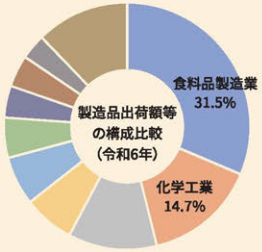


製麺

おいしさと安全にこだわり、最先端の工場で徹底管理のもと、安定して生産される種類豊富な麺。

食料品製造業が地域経済を牽引

製造品出荷量等の構成比率・従業員比率ともに約3割を占める本市の中心産業です。



従業員比率
29.0%

製造品出荷額等の構成比率
31.5%

2024年経済構造実態調査参照

多様な製造業が集積する「ものづくりのまち」

幅広い産業基盤が企業の多様なニーズに応えます。

産業中分類名	従業員比率	製造品出荷額等比率
食料品製造業	29.0%	31.5%
化学工業	4.2%	14.7%
電子部品・デバイス・電子回路製造業	11.5%	11.7%
はん用機械器具製造業	10.6%	6.6%
生産用機械器具製造業	9.3%	6.5%
家具・装備品製造業	6.0%	5.2%
金属製品製造業	7.2%	4.2%
印刷・同関連業	5.2%	4.1%
窯業・土石製品製造業	4.5%	3.3%
その他の製造業	12.5%	12.1%

自然の恵み×技術力×人の力で、未来をつくるまち。

豊かな自然・生産者のこだわり





清らかな水と肥沃な大地
生産者の情熱とこだわりが高品質な原材料を生み出します。

×

加工・製造の技術 安定した流通網

確かな技術と衛生管理のもと、安全・安心でおいしい製品に。地域から全国へ、安定した流通で新鮮なままお届けします。





▶

食卓へ・笑顔へ そして未来へつなぐ





おいしい「食」がみんなの笑顔と豊かな暮らしをつくります。
持続可能な食の産業を育て、次の世代の未来へつなぎます。

企業立地に最適な環境

新潟県東部産業団地

阿賀野市安田地区に位置する県営団地で
高速道路が近く首都圏、
東北圏へのアクセスも良好な、
絶好の生産拠点です

分譲価格
1㎡あたり
9,200円

3つのPRポイント

1. 強固な地盤、低廉な分譲価格、直ちに着工可能な大区画用地
2. 本州日本海側最大都市の新潟市に隣接
3. 令和7年に開通した国道49号水原バイパスにより、交通アクセスがさらに向上！

あれも、これも いいものいろいろ

このまちで出会える、特別な風景。

豊かな自然と、
ここにしかない魅力がある。
阿賀野市で、
心がよろこぶ時間を。





「白鳥おじさん」に会えるかも!

瓢湖水きん公園

白鳥の渡来地として全国的に有名で、ラムサール条約登録湿地でもある「瓢湖」。昭和29年、日本で初めて野生の白鳥の餌付けに成功し、その後、国の天然記念物に指定されました。白鳥は毎年10月～3月上旬まで訪れ、11月中旬ころのピーク時には5,000羽を超える白鳥が見られることもあります。



道の駅「あがの」

道の駅「あがの」は、令和4年に国道49号沿いにオープンした、阿賀野市初の道の駅です。「買う」「食べる」「遊ぶ」を満喫できる、家族みんなが楽しめる道の駅です。



アートと瓦が彩るまちの風景

やすだ瓦ロード

安田地区は、耐久性が強く雪国の過酷な環境に適した「安田瓦」の産地。瓦の生産工場などが立ち並ぶエリアを散策できるこのストリートには、道路脇に1万枚に及ぶ瓦の装飾や鬼瓦などの瓦アートが楽しめます。





五頭山・五頭温泉郷

5つの峰を持つことから、その名がついた五頭山。
弘法大師（空海）によって開山されて1200年、人々の信仰を集めてきました。キャンプ場が充実し、一年を通して多くの登山者で賑わっています。
山の麓には五頭温泉郷（出湯、今板、村杉温泉）があり、全国屈指のラジウム温泉に日頃の疲れも癒されます。

自然に癒される特別なひとときを



サントピアワールド

北陸一の規模を誇る遊園地で、恐竜ジェットコースターや大観覧車など、アトラクションは約30種。
キャンプ場やサバイバルゲーム専用フィールドなども併設され、さまざまな楽しみができます。

その他観光情報はこちら

＼新潟県酪農発祥の地／ 阿賀野市

新潟県の酪農の歴史は明治40年頃阿賀野市（旧安田町）で始まりました。以来、地域の酪農文化を受け継ぎながら、生乳を生かした加工にも力を注いできました。
今もヨーグルトやアイスなど、豊かな恵みを生かした乳製品が作られています。



ソフトクリーム&ジェラートショップ　みるぱす



KANDAMILKの「やすだ愛情牛乳」はコクのある口当たりとさっぱりした後味。
朝搾りたてのミルクを使ったソフトクリームが大人気。
期間限定のパフェやジェラートも味わえます。

ヤスダヨーグルト　Y&Yガーデン



ドリンクヨーグルトでおなじみ、ヤスダヨーグルトの工場隣接ショップ。
ドリンクヨーグルト、バター、限定スイーツ、ホエーで作った化粧品やオリジナルグッズなどをラインナップ。
また工場見学も出来ます（要予約）。

阿賀野市で かがやく移住者

Q1 阿賀野市にお店をオープンするまでの経緯は

阿賀野市でお店を開きたいなって思った時に、阿賀野市の人はもちろん、新潟市など市外の人にも発信したいと考えていたので、アクセスの良い、今のお店がある京ヶ瀬地区でのオープンを考えていました。

地元の工務店の方の助けもあり、京ヶ瀬の地主さんに手紙を送って、快く了承して頂きました。それから仲良くしてもらっていて、今でもお喋りをしにお茶を飲みに行ってます。

ほかにも地元の方が本当に良い人ばかりで、皆さんの助けもあり、スムーズに開業することができました。



阿賀野市の魅力を込めたシュークリーム

鈴木　安佳里さん

石川県金沢市出身。結婚を機に、夫の地元である阿賀野市に移住。
地産地消をコンセプトにした、世界的に有名な辻口博啓シェフのお店で働いていた、経験から阿賀野市のおいしい牛乳を生かしたシュークリーム専門店「chouette（シュエット）」をオープン。
阿賀野市の魅力を地域の食材を生かしたシュークリームを通して発信されています。

Q2 地元の食材を使ったシュークリームが人気ですね



地元酪農家の「神田酪農」さんの牛乳ありきでシュークリームを販売する事は、最初に考えていました。

あとは知り合いにいちご農家の方がいて、そのつながりで他の農家さんを紹介してもらったり、今ではJAの力も借りて、おいしい阿賀野市産の果物や食材を紹介してもらっています。

なにせ自然豊かな場所なので、探せばいろんな魅力的な食材が出てくるのが楽しいです。

Q3 阿賀野市での子育ては

住んでいるところが自然豊かなので、のびのびと子育てができます。保育園も小学校も広い庭園や山があって、金沢出身で街中に住んでいた私にとっては、車を気にせず、おもいっきり外で遊べるのってとても良い環境だと思いました。

お休みの日は、家の外でのBBQや五頭山の麓で川遊びをするなど、家族でアウトドアを楽しんでいます。



Q4 阿賀野市に住んでみたいという方に一言

実際に住んでみると、本当に自然豊かで感動する景色がいっぱいあるし、ちょっと遊びに出かけたかったら新潟市までもすぐ行けるし、都会と田舎のいいとこ取りできるのが阿賀野市かなって思います。

移住のハードルは高くないと思いますし、ただの引っ越しくらいの気持ちで来てもらってもいいところだと思います。

Q1 移住したなかで阿賀野市の印象は

活動の中で、さまざまな人と話して感じたのは、都会的な地域よりも阿賀野市のほうが新しいことを始めやすいのかな、ということです。余剰な地域資源があったり、あと、この規模感の地域って、新しい人が何かを始める時に、応援したり、興味を持って手助けしてくれる。

例えば、取材したケーキ屋さんの話では、開店当初、地元の和菓子屋さんがアドバイスしてくれたって言うんです。ライバルではなく、同じ地域を盛り上げる仲間として助け合おうと。

開業する上で資金力があればハード面は揃えられるけど、このような人間関係は個人の努力では手に入らない部分もあるので、そういう意味では阿賀野市は新しいことを始めやすい環境なのかなと感じました。



Q2 情報発信しながらなぜ「タコスソース」

タコスソースの開発から商品化までを、情報発信のコンテンツにしようと思ったところがスタートです。

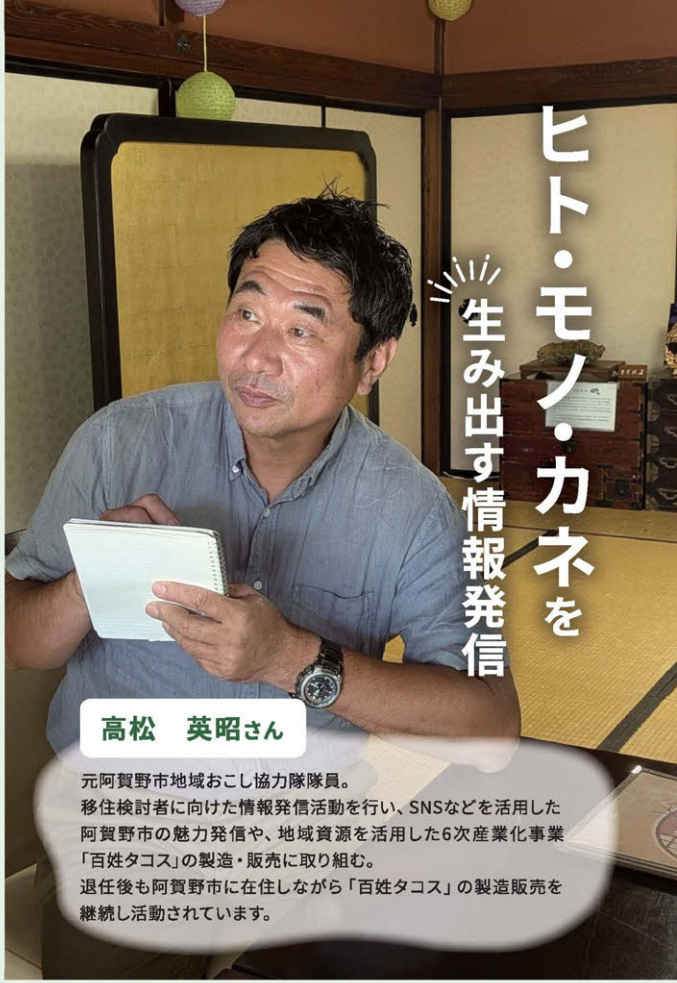
私に与えられたミッションが移住者向けの情報発信だったので、彼らにとって何が訴求力が高いかを考えたときに、移住者の私自身が、地域の中で関係性を作り、地域資源を使い、スタートアップして商品作る。

その過程を情報コンテンツとして発信することが、移住検討者が求めるリアルな情報になるんじゃないかと。

タコスソースに対して、地域の皆さんや市役所の人たちも協力してくれたり、関心を持ってくれました。

地域全体で一つの事業を、一人の人を盛り上げていこうという雰囲気があるというのは、取材を通して感じていたし、私自身も体験的に実感しました。





ヒト・モノ・カネを生み出す情報発信

高松　英昭さん

元阿賀野市地域おこし協力隊隊員。
移住検討者に向けた情報発信活動を行い、SNSなどを活用した阿賀野市の魅力発信や、地域資源を活用した6次産業化事業「百姓タコス」の製造・販売に取り組む。
退任後も阿賀野市に在住しながら「百姓タコス」の製造販売を継続し活動されています。

Q3 阿賀野市に住んでみたいという方に一言

移住するうえでみんなが不安に思うことは、地域での関係性なんですよね。

そこで大事なのが、移住体験などを通じて実際生活してみて、人と話してリアルな言葉を聞くことだと思います。また、私は情報発信で阿賀野市の人を多く取り上げました。

実際住みたいと思う地域の人はどんな暮らしをして、どういう思いでいるのかを知り、少しでも不安の解消できたら良いなと思っていました。



阿賀野市 地域おこし協力隊 インスタグラム

移住サイトは こちら



新潟県政発祥の地
阿賀野市

1 越後府設置の背景

およそ280年前、江戸幕府は現在の水原地区の外城町に水原代官所を設置しました。

水原は豊かな水や気候にも恵まれた米作りに適した土地でした。また、水運の便が良く交通の要衝でした。

この土地柄は幕府直轄領として年貢米の増収も兼ねるために都合が良いものでした。

2 越後府の前身：継志園

江戸中期ごろから越後の大地主市島家は、窮民救済などを名分とし、現在の天朝山公園に1842年（天保13年）までに別邸を築造しました。この別邸は「継志園」と名付けられます。

しかし、戊辰戦争が始まると会津軍の本陣となり、戦役で焼失しました。

その後、跡地は市島家から新政府へ献上され、1869年（明治2年）新政府により「越後府」造営が進められることとなります。



越後府庁舎やぐら



越後府遠景

3 越後府（水原県）での執政

明治新政府は、1869年（明治2年）2月、越後の政治拠点として、継志園に越後府（7月に水原県と改称）を設置します。

越後府には軍事方、租税方、刑法方、聴訟方ほかがあり、行政が執り行われました。

新政府は行政の円滑化のため、地元から多くの役人を登用しました。





越後府印
（水原町編年史より）

4 越後府（水原県）での執政

明治初期に新潟県の政治の拠点となった「越後府」そして「水原県」は1年余りで役目を終えます。

庁舎自体は、新政府により1873年（明治6年）頃までに売却されます。跡地は元の所有者である市島家に返されましたが、昭和20年に水原町が買い取り、昭和47年、「越後府跡」として県の文化財（史跡）指定を受け、現在に至っています。





越後府跡

時の流れで見る 阿賀野市のあゆみ

歴史を未来へ、つなぐまち。

西暦（年）	阿賀野市	新潟県	国内情勢
1746～1868	1746年～1868年 水原代官所設置	1868年4月 新潟裁判所・佐渡裁判所設置 1868年5月 越後府を新潟に設置	
1867			1867年　大政奉還 王政復古の大号令
1868	1868年3月 （会津軍本陣） 1868年7月 水原民生局設置	1868年9月 新潟府に改称（水原）	1868年1月 ～1869年5月 戊辰戦争 （北越戊辰戦争）
1869	1869年2月8日 越後府設置（水原） 1869年7月 水原県に改称		
1870	1870年3月 新潟県に改称 「新潟が本庁（移転）、水原は水原局へ」		
1873	1873年 越後府は取り壊しへ （新政府により）		
1886		1886年 東蒲原郡を新潟県に編入 （新潟県域確定）	
1889～1901	1889年4月 町村制施行を経て 1901年 京ヶ瀬村発足		
1893		1893年 県人口170万6千人 （全国一位）	
1941～1945			1941年～1945年 太平洋戦争
1955～1960	1955年　水原町発足 1959年　笹神村発足 1960年　安田町発足		「戦後の復興を経て 現代の日本へ」
2004	2004年4月 阿賀野市誕生 現在に至る		

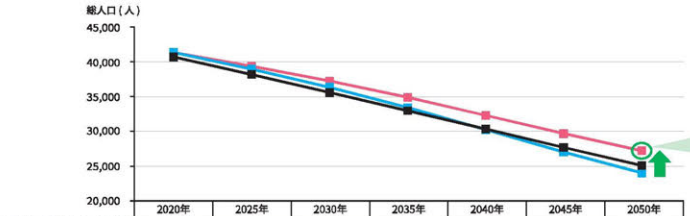
まちづくりの基本方針

阿賀野市総合計画　2025-2032

人口ビジョンを踏まえた展開

阿賀野市総合計画では、阿賀野市の人口の将来展望を下記のように設定しています。この人口展望を踏まえ、できる限り人口減少を緩やかにしていくとともに、人口減少社会においても、市民が安心して暮らせる環境を整え、持続可能で魅力あるまちづくりを進めます。

2050年
27,050人
(3,242人の減少抑制)



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
社人研推計準拠値	40.696	38.157	35.512	32.872	30.224	27.533	24.893
全市推計	41.369	38.942	36.285	33.341	30.110	26.861	23.808
市将来展望	41.369	39.336	37.208	34.820	32.193	29.547	27.050

合計特殊出生率改善、若者の転出抑制で、人口増加。

基本構想

まちづくりの方向性

自然、歴史、地理という市固有の「地域資源」をいかし、地域の魅力を引き出しながら、市民が安心して暮らせるまちづくりを目指します。
これにより、地域の強みを活用して、より住みやすく、誇りを持てるまちを実現します。

自然環境をいかしたまちづくり

- 豊かな自然を守りながら、その魅力を活用して、市民が心身ともに健康で暮らせる環境を整えます。
- 気候や季節の変化に応じた活動を通じて、地域住民や観光客が自然の恵みを享受できるまちを目指します。
- 持続可能な再生エネルギーの活用を進め、環境に配慮した暮らしを推進します。





歴史環境をいかしたまちづくり

- 市の史跡や伝統文化を保存・活用し、次世代に引き継ぎます。
- 地域の祭りや伝統行事などの地域活動を支え、愛着と誇りを育む環境づくりを進めます。





地政学的条件をいかしたまちづくり

- 市が持つ地理的な位置や気候、交通の便をいかし、地域経済の活性化を図ります。
- 災害に強いまちづくりを重視し、地形や気候を考慮した防災・減災対策を実施します。





基本計画

中期的なまちづくりの目標

住み良い、いきいき元気なまち

－ まちづくり（育み）の理念　みんなで創る阿賀野市 －

まちづくり目標を実現するための施策

1 安心な暮らしの確保と向上

- 防災減災体制の充実
- 地域医療体制の充実
- 健康づくりの推進
- 地域福祉とセーフティネット社会の推進
- 消防・救急体制の充実
- くらしの安全対策の推進

2 子どもと子育て世代への支援

- 子育て環境の充実
- 学校教育の充実



3 高齢者・障がい者福祉の充実

- 高齢者福祉の充実
- 障がい者福祉の充実



4 地域経済の活性化と拡充

- 農業の振興
- 商工業の振興
- 観光の振興と交流の推進



5 生活に密着した住みやすい環境づくり

- 土地、建物等の有効利用
- 道路環境の充実
- 公共交通の整備推進
- 上水道の安定供給
- 汚水処理の推進
- 生活衛生・環境の保全
- 地球環境・自然環境の保全

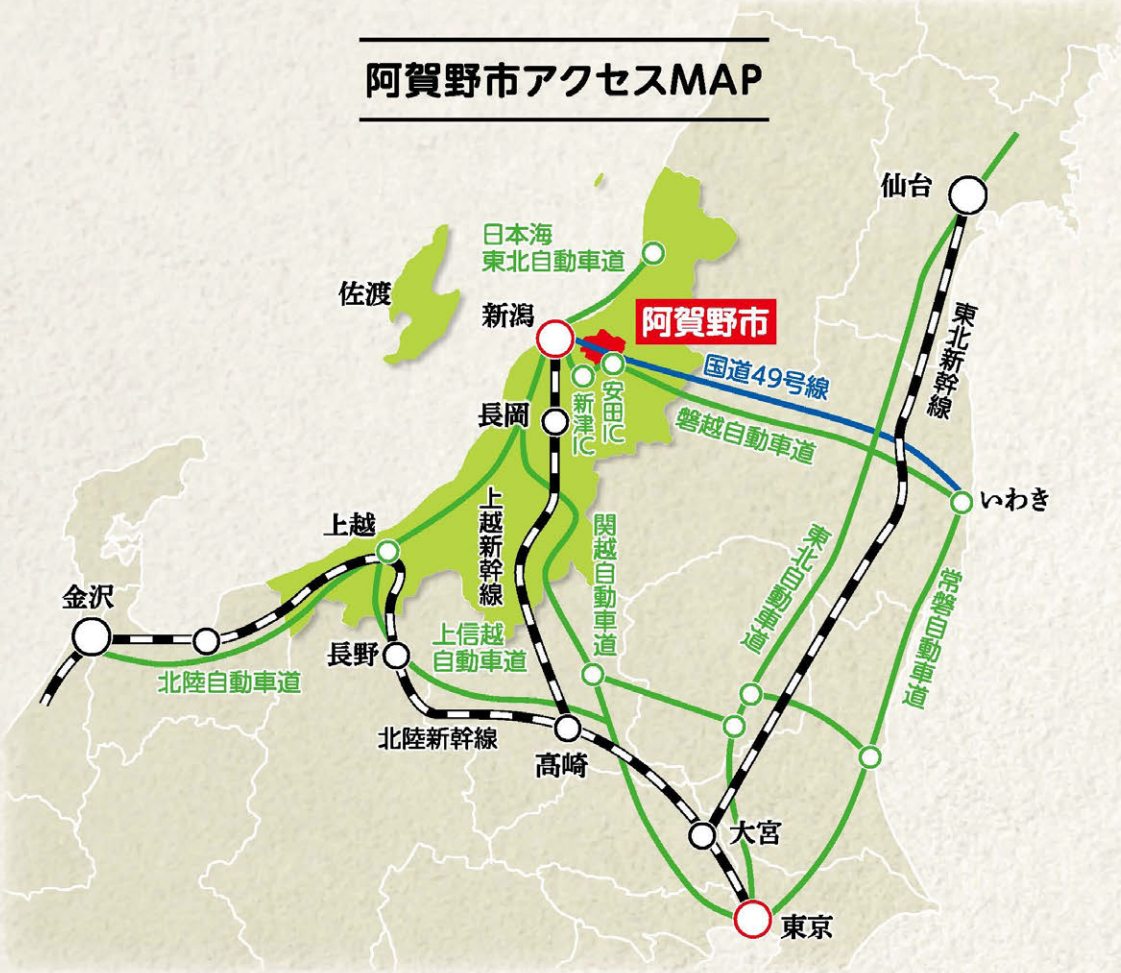
6 多様性の尊重と民協働の推進

- 歴史・文化の継承
- 市民によるまちづくり活動の活性化
- 生涯学習の充実
- 地域を担う人材の確保・育成
- 人権を尊重するひとづくり、まちづくり

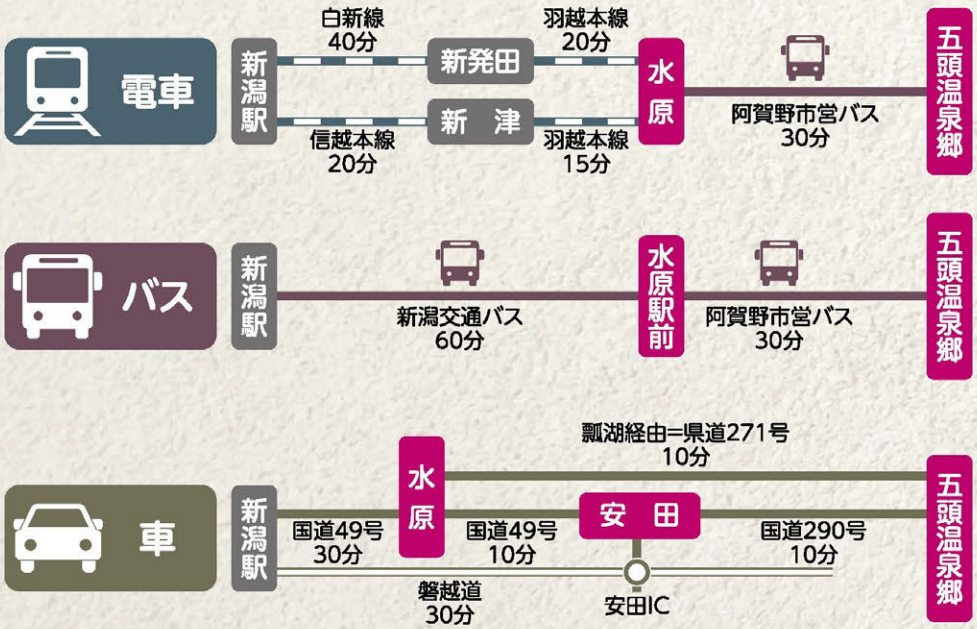
7 市役所機能の整備・強化と信頼される行政運営

- 行政経営の推進
- 適切な行政事務の執行とサービス提供

阿賀野市アクセスMAP



新潟市から阿賀野市へ



阿賀野市 市勢要覧
2026年版

発　　行 / 阿賀野市
企画・編集 / 阿賀野市総務部まちづくり政策課

〒959-2092　新潟県阿賀野市岡山町10番15号
☎ 0250-62-2510
URL https://www.city.agano.niigata.jp

発　行　日 /令和8年10月